「みやぎ民話の会」の活動

民話の学校を開く

叢書は活字によって民話を伝えますが、活字からこぼれ落ちたものをみなさんに伝えたいという願いがあって、「みやぎ民話の学校」を開いてきました。この「学校」の先生は語り手のみなさんです。多いときは、15 人の語り手のみなさんに来て頂いて、一晩や二晩、膝をつきあわせて、さまざまなお話を聞かせて頂きました。2011 年 8 月 21～22 日に開催した「第 7 回みやぎ民話の学校」では、「大地震・大津波を語り継ぐために - 声なきものの声を聴き、形なきものの形を刻む」をテーマに、沿岸部で被災された語り手 6 人のみなさんに 3 月 11 日の体験をお話して頂きました。

民話を訪ね歩く

地域を選び、その土地に足を踏み入れて、一軒一軒「小さい頃に聞いた民話を記憶されていませんか？」とたずね歩きます。運よく民話を聞くことができたならば、それをテープやメモなどで大切に記録します。

資料集をつくる

聞いた話を採録したテープを文字に起こします。それを資料集という形にまとめて会員で共有します。資料集は、現在 516 冊になりました。

叢書（そうしょ）をつくる

資料集の中から民話を選んで「みやぎ民話の会叢書」として発行しています。叢書は原則として一人の語り手で一冊を編んできました。なぜなら、民話は語った人の暮らしや人生と深く関わってくるからです。叢書は今までに第 14 集（16 冊）まで発行しました。1 冊約 300 ページ前後です。

協働する

みやぎ民話の会「民話　声の図書室」プロジェクトチームとせんだいメディアテークが協働し、メディアや場所を使いながら、さまざまな活動を行っています。